

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：36101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370329

研究課題名(和文) グレアム・グリーン文学と第二次世界大戦後のメディア・ポリティクス

研究課題名(英文) Graham Greene's Literature in the Postwar Media Politics

## 研究代表者

阿部 曜子 (ABE, YOKO)

四国大学・文学部・教授

研究者番号：60294732

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)： グレアム・グリーンの独自性は、これまで注目されてきたような異端的なカトリシズムばかりではなく、映画や新聞等の大衆メディアへの強い関心とその関わり方にもある。本研究は、グリーンが創作の傍ら、多くの投書や記事を新聞・雑誌に送り、また、英米の映画界に深く関与し、反米・反権力に貫かれた言説空間を形成していったことに着目し、文学とメディアのインタラクティブな関係を、メディアの力学という文化史的な文脈の中で考察するものであった。英米で収集した資料等を分析し、第二次世界大戦後の政治的混乱期を射抜くグリーンの鋭い眼光が、同時にカルチュラル・ポリティクスにおけるメディアの重要性を捉えていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)： This study explored the interactive relationship between the media and literature in the ideological confrontation, focusing on Graham Greene's acute interest in the mass media such as film and the journalism. He was closely involved in making an American film immediately after the World War II, which reinforced his transatlantic position to speak in the postwar cultural politics. Furthermore Greene had been sending a lot of letters to the press as an acute critic of American foreign policy. Analyzing them shows us not only that Greene was one of the closest witnesses of the Cold War era but also that he has a keen insight into the nature of media as an important part of cultural politics.

研究分野：英米文学

キーワード：グレアム・グリーン 英文学 第二次世界大戦後 冷戦 映画 メディア

## 1. 研究開始当初の背景

グレアム・グリーン研究は2004年の生誕100周年を機に弾みを得た。Norman Sherry, *The Life of Graham Greene*, vol3、Michael G. Brennan, *Graham Greene: Fictions, Faith and Authorship* などその足跡や作品を俯瞰しようとするものや、S. J. Mark Bosco, *Graham Greene's Catholic Imagination* や Murray Roston, *Graham Greene's Narrative Strategies* など主要作品の新たな視点からの読み直しを図ろうとするもの、さらに Ian Thomson, ed. *Articles of Faith: The Collected Tablet Journalism of Graham Greene* や、Richard Greene, ed. *Graham Greene: A Life in Letters* などグリーンによる書評や手紙等、周縁的なものに目を向けた研究が相次いで出てきた。

国内においても同様で、本研究代表者も『グレアム・グリーン文学事典』(山形和美編)の作成に参画し、『グレアム・グリーンの原風景』(共著)を出版する機会を得た。その過程で、晩年のエッセイ集 *Reflections*, ed. Judith Adamson や、グリーンが新聞や雑誌に送った手紙をまとめた *Yours etc.: Letters to the Press 1945-89*、さらに映画批評集 *The Graham Greene Film Reader: Reviews, Essays, Interviews & Film Stories*, ed. David Parkinson を丹念に読み込むこととなったのであるが、そこから浮かび上がってきたのは、この作家のメディアへの強い関心とメディアを巧みに使うそのユニークな手法であった。グリーンは作品を書き続ける傍らで、実に多くの記事や投書を新聞や雑誌に送り続け、また数百編にも及ぶ映画批評を書いているという事実は、彼が新聞や雑誌、映画といった大衆文化としてのメディアが潜在的に持つ影響力の大きさやメディア固有の機能を熟知していた作家であることを示していると言える。

ここに注目した研究代表者は2009~2011

年、科学研究費補助金、基盤研究(C)の助成を受け(課題番号21520305「グレアム・グリーンのメディア表象 投書と映画」)、グリーンの投書と映画をめぐってのメディア表象を分析・考察した。彼が *The Times* 等に寄せた「投書」を分類・検証し、「投書」という形式にしたことの意義や、仏印戦争下のジャーナリストとしてのグリーンの表象のあり方等について試論を出し、さらにグリーンが書いた数多くの映画批評や映画についてのエッセイ等を、視覚表象、映像メディアとしての映画に対するグリーンの考え方や処し方について考察し、論文にまとめた。

しかし、研究を進めていく内に徐々に色濃くなってきたグリーンの反米思想や、メディアへの関わりの特異性をより深く理解するためには、メディアを取り巻く、あるいはメディアそのものに内在する政治的・文化的要因や事象について、時代思潮や流れを汲みつつ捉える必要があることを痛感し、本研究へと繋がった。

## 2. 研究の目的

本研究は、第二次世界大戦後から冷戦前期の世界の動乱期において、グレアム・グリーンが印刷メディアとしての新聞・雑誌に、さらに映像メディアとしての映画にいかに関わり、その言説が時代や社会の中でいかなる言説空間を形成したか等を検証し考察するものであり、具体的には次の3点を明らかにすることを目標とした。

(1) <第二次世界大戦後>のカルチュラル・ポリティクスとグリーン文学/映画について

映画を作ることを目的に書かれた小説『第三の男』(1949)が、英米合作の映画になるプロセスにおいて、グリーンがどのようにハリウッドに象徴されるアメリカを排し、あるいは受容していったかを、政治的・文化史的

文脈の中で捉えていく。

## (2) <冷戦時>のメディア・ポリティクスとグリーン文学について

主として冷戦前期に書かれたグリーン作品、及びこの時期の政治的状況や文学/文化についてのグリーンによる諸々の言説(特にキューバをめぐる)を検証し、どのような背景や要因があるのかを紐解いていく。

## (3) グリーンの反米思想について

上記(1)(2)に貫かれていると予測される反米姿勢の形成過程を、新聞に寄せた投書や記事を、当時の政治的・文化的な文脈の中で分析し、その根幹にあるものを究明する。

## 3. 研究の方法

第二次世界大戦後のグリーンの映画表象に関する研究に当たっては、テキサス大学オースティン校のハリー・ランサムセンターに行き、所蔵されている「グリーン・コレクション」の中から『第三の男』の草稿や、映画制作のプロセスで交わされたいわゆる「セルズニック・メモ」を直接閲覧し、またその他の映画関連の文献資料を収集し、分析・考察を行った。

さらに期間中2度訪英し、ロンドンの大英図書館で1950年代を中心に新聞・雑誌等にグリーンが寄せた投稿記事や取材記事を閲覧したほか、2015年よりオックスフォード大学ペリオール・カレッジの歴史資料館で研究者に公開されている、グリーンの秘書ジョセフィーヌ・リードによるグリーン手書きのメモや書簡を閲覧し、貴重な情報を得ることができた。それらを分析、吟味し、学会発表や論文執筆に役立てた。

## 4. 研究成果

グリーンがフィクションという分野を中心に創作を続ける一方で、大戦後のメディアの中でどのような言説空間を形成していったかを歴史的・文化的な文脈で考察し、論文

としてまとめ、学会などで発表した。

## (1) 大戦後のカルチュラル・ポリティクスの中の映画『第三の男』

映画『第三の男』は、グリーン自身が監督キャロル・リードと共に何度もハリウッドに渡り制作に関わった英米合作のトランスアトランティックな映画であるが、そこには戦後の英米両国のパワーバランスの構図等、政治的混迷期の世界情勢が色濃く反映していたことが、先行研究やグリーンの回想記や「セルズニック・メモ」、またグリーンがエージェントとの間で交わした書簡や、映画の改稿スクリプト等を分析することで浮かび上がってきた。

それは同時に第一次世界大戦後に既にヨーロッパに押し寄せつつあったアメリカニゼーションという流れが、第二次世界大戦後は戦争で疲弊しきったイギリスとイギリス映画が、経済的・軍事的に支配力を強めていくアメリカとアメリカ映画に頼らざるを得なかったという流れに継承されたというカルチュラル・ポリティクスでもあった。これらのことを映画という視覚メディアそのものが持つ政治性などについての論考も併せて論文としてまとめた。

## (2) グリーンの反米主義

グリーンのアメリカへの舌鋒が一段と激しくなる1950年代は、東西二陣営の体制が確立し、冷戦がよりグローバルなものへと拡大しつつある時でもあった。この時期グリーンは何度もベトナムやキューバ等に足を運び取材を重ねながら、これら小国の悲劇の源泉が、覇権国家アメリカが創り出す冷戦構造そのものの中にあるという確信を深めていく。そのプロセスや方法を、マッカーシズムの嵐の中でアメリカを追放されたチャールズ・チャップリンへの擁護論や、1950年代から既に始まっていたアメリカのインドシ

ナ半島へのプレゼンスをグリーンがいち早く見抜いていたことを示す『サンデー・タイムズ』等への記事を分析し、その反アメリカ主義に彩られた言説空間から見えてくるものなどを論文、研究会で論じた。

### (3) キューバをめぐるのグリーンの言説

グリーンは冷戦下の様々な歴史的事象、ある意味戦略的に自らの領域に取り込み、作品のみならず新聞や雑誌というメディアを通じて形象化して行った作家であり、そのことはキューバを巡っての一連の言説に象徴的に表れている。米ソ2大国の間で揺れるキューバを舞台にした冷戦風刺小説『ハバナの男』には、その後の冷戦体制下で起こるキューバ革命やキューバミサイル危機を予期するような内容がすでに含まれていたという事実は、世界情勢を分析するグリーンの慧眼の鋭さを示している。またこのカリブ海の小国に世界中の耳目が集まっている時にグリーンが『タイムズ』紙に度々送ったキューバに関しての投書や記事の多くは、カストロ擁護論からイギリス政府やアメリカの外交政策を手厳しく批判するものなどであったが、そのことが表す意味について、グリーンとイギリス情報部との関係も絡めた論考を学会で発表した。

### 5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計3件)

阿部曜子「グレアム・グリーンの反アメリカ主義 初期冷戦時代を中心に」『四国大学紀要 人文・社会科学編』第46号、査読無、2016年、pp.81-96.

阿部曜子「映像テキストとしての『第三の男』 第二次世界大戦後のポリティクスの中で読み解く」『四国大学紀要 人文・社会科学編』第43号、2014年、査読無、pp.25-37.

阿部曜子「グレアム・グリーン、逆説の表象」『キリスト教文学研究』第31号、2014年、査読有、pp.39-51.

#### [学会発表](計4件)

阿部曜子「グレアム・グリーンと冷戦下のキューバ Our Man in Havana を中心に」日本英文学会中国四国支部 第69回大会(愛媛大学)2016年10月29日

阿部曜子「冷戦と文学 1950年代のあるイギリス人作家の言説空間を中心に」四国大学言語文化研究所 月例研究会(四国大学)2016年7月26日

阿部曜子「グレアム・グリーン文学の三角形」日本キリスト教文学会 2015年度ミニ・シンポジウム「女性が<語る>グレアム・グリーン」(昭和女子大学)2015年12月12日

阿部曜子「グレアム・グリーンの世界に見る宗教の逆説性」日本キリスト教文学会第43回全国大会 シンポジウム「文学と宗教の対話」(関西学院大学)2013年5月11日

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

阿部 曜子 (ABE, YOKO)  
四国大学・文学部・教授  
研究者番号: 60294732